

*FirstGlobal* メッセージ

# siesta

2019.9月号 vol.195

発行元：〒540-0012

大阪府中央区谷町1-6-4

天満橋八千代ビル10階

(株)ファーストグローバルコンサルティング

代表取締役

戦略人事コンサルタント 品川典久

TEL 06-6910-3007 FAX 06-6910-3008

Email [shinagawa@1gc.jp](mailto:shinagawa@1gc.jp)

URL <http://www.1gc.jp>

## 今月のトピックス

### 球数制限

今年の夏は全国的に雨の日が多いですが、このおたよりを作成している最中に全国で高校野球の甲子園大会の予選が行われ、続々と代表校が決定しています。そんな中岩手県の決勝戦が物議を醸しています。ご存知の方も多いと思いますが、最速163キロのボールを投げるプロ野球、いやメジャーリーグも注目の大船渡高校の佐々木投手が甲子園出場を賭けた決勝戦で投げませんでした。正確にいうと、指揮官の国保監督が投げさせませんでした。結果は2-12で大谷選手などの母校の花巻東高に敗れ、甲子園出場を果たすことはできませんでした。この国保監督の判断に対して、賛否の声で溢れかえっているようです。私の見立てを申し上げますと、この判断が正しかったかどうかは、今はわかりません。ただ監督がベストと思って下した判断なので、尊重するべきだと思います。真実は当事者にしかわかりません。ただ、成否はどうあれ、監督はよく決断されたと思います。結果的に学校にはなぜ投げさせなかった？という類の苦情の電話が殺到し、準優勝報告会にはパトカーまで出動する騒ぎになったそうです。おそらくこのご時勢ですから、SNSなどで監督や周囲の方への批判や中傷も予想されます。私が言いたいのは、こういう判断を当事者任せにすべきではない、ということです。勝ち進んだ時、当事者の監督や選手は必ず無理をしてしまいます。そこに部外者が無理するな、とは言えません。もし最初から球数制限や回数制限などのルールがあれば、学校や監督が責められることはありませんでした。大会日程をもっと緩和すべき、という意見もあります。ルールは人を守ってくれます。会社などでも同様だと思います。ガチガチにルールを設けるとルールに縛られる、自分で判断することができなくなる、とおっしゃる経営者の方もいらっしゃいます。一理はあるかもしれませんが、結局会社側の都合のいい部分を維持したいという思いが垣間見えます。世間を騒がせている吉本興業のタレントさんの契約書の問題も根っこは同じだと思います。ルールは双方を守るために必要である、ということをもっとわかってもらいたい



久々に執筆させていただき、賃金制度設計などについて「近代中小企業」（発行：中小企業経営研究会 <https://www.kinchu.jp>）8月号に寄稿させていただくこととなりました。市販されていない雑誌ですが、よければ購読してあげてください。